

○議 事 日 程

令和元年11月11日（月）午前10時開会

令和元年度第2回守口市まち・ひと・しごと創生委員会

○出 席 委 員 （11名）

委員長	眞 鍋	昇 委員
	山 口 行	一 委員
	藤 田 智	子 委員
	山 田 和	利 委員
	佐 伯 剛	之 委員
	橋 本 恒	己 委員
	小 西 雅	晴 委員
	井 後 紗	代 委員
	工 藤 順	子 委員
	川 上 博	文 委員
	宮 本 欽	司 委員

○事務局

企 画 財 政 部 長	工 藤 恵 司
企画財政部都市経営戦略監	瀬 戸 隆 之
企画財政部次長兼企画課長	尾 崎 剛
企 画 課 長 代 理	仲 嶋 浩 平
企 画 課 主 任	吉 本 博 樹
企 画 課 主 査	西 田 恵 里 子

~~~~~

◇ 午前10時00分 開会

○委員長 おはようございます。それでは、定刻となりましたので、令和元年度第2回の守口市まち・ひと・しごと創生委員会を開催させていただきます。

委員の皆様におかれましては、公私、何かと御多忙の中お集まりいただきありがとうございます。

それでは、議事に入ります前に、皆様をお願いします。本委員会は、会議録を作成する都合上、録音をさせていただいています。御了承賜りますようお願いいたします。また、議事録作成のために、御発言の前には挙手の上、私から指名させていただいて、お名前がわかるようによろしくお願ひしたいと思います。

では、事務局から、きょうの出席委員数の報告がありますので、事務局の吉本主任をお願いします。

○事務局 御報告申し上げます。本日の出席委員は、定数15名中11名でございます。

○委員長 ありがとうございます。

ただいま事務局より報告がありましたように、委員会の条例第5条第2項の規定に基づいて定足数には達しております。会議は成立いたします。

まず、配付しました資料の御確認を事務局からさせていただきたいと思ひます。

○事務局 お手元の資料については、目の前にあるパソコンで閲覧いただき、会議を進めさせていただきます。会議の進行に合わせ、事務局において画面を切り替えさせていただきます。資料は7種類ございますので、よろしくお願ひいたします。

○委員長 どうもありがとうございます。それでは、議事を進めさせていただきます。

まず、案件の1、意見交換でございますけど、若者アンケート等の実施状

況について、事務局から説明をお願いします。

○事務局　それでは、「案件（１）意見交換 若者アンケート等の実施状況について」をご説明させていただきます。お手元の「資料1（仮称）第六次守口総合基本計画策定に関するアンケート調査結果」をご参照賜りますようお願いいたします。

本アンケートについては、令和３年度からの本市のまちづくりの指針となる「（仮称）第六次守口総合基本計画」策定のため、市民から本市の魅力や今後の居住意向などについての意見を把握し、その戦略を策定するための参考とするために、実施したものです。

前回の創生委員会においてもご説明いたしましたが、次期総合戦略については、令和２年度中に策定する第６次守口総合基本計画との整合性を図る観点から計画期間を１年延伸することとしており、第６次守口総合基本計画における目標や主要施策を次期総合戦略の目標や重点施策とすることを基本に考えていることから、本アンケートの質問項目を次期総合戦略の策定に活用できるよう精査・調整をさせていただいたところです。

については、総合戦略の策定にあたり、別にアンケート調査を実施することはせず、本アンケート結果を基に、策定作業を進めてまいりたいと考えているところです。

なお、本アンケート結果については、速報となっておりますことから今後、クロス集計も実施し、更なる分析等を実施する予定です。

それでは、アンケート内容について総合戦略と関わりが大きい若者アンケート調査の結果を中心に、概略を報告させていただきます。

まず、１．調査結果の概要（２）回答状況でございますが、調査実施期間については、令和元年８月21日（水）から９月10日（火）までの３週間実施しました。調査方法は、郵送によるものとし、若者アンケートについては、対象を市内在住の15歳から21歳の市民とし、発送数1,000件に対しまして、有効回収数291件、回収率29.1%でした。

２．若者アンケート（１）回答者の属性でございますが、①性別について

は、男性43.6%、女性55.0%となっており、女性のほうが多く回答がございました。次に、②年齢については、ほぼ回答率としては均衡しておりますが、18歳、20歳、21歳が比較的高い回答率にあります。次に、③居住小学校区については、守口市役所周辺の守口小学校区、市の東部、寝屋川市付近のよつば小学校区が比較的高い回答率にありました。次に、④家族構成と同居人数については、「親と同居」が、84.2%と一番多く、同居人数については「4人」が最も多くなっております。次に、⑤就学・就業状況については、大半を高校、短期大学、高専及び大学生が占めたところです。

次に、(2) 地域活動や行政、市役所の情報を入手しやすい方法としては、SNSが50.2%と最も多く、次いで市から毎月発行する「広報もりぐち」という結果となっております。

次に、(3) 守口市立学校の教育に力を入れて取り組むべきものをお伺いしました。まず、①回答者の守口市立の学校への通学状況ですが、81.8%の方が小学校と中学校の両方に通学していたと回答されました。次に、②守口市立学校への教育に力を入れて取り組むべきものとしては、学力の向上、いじめや不登校への対応に比較的多くの回答がありました。

次に、(4) 守口市のイメージや住みやすさについて、お伺いしました。まず、①守口市に対する全体的なイメージとしては、良いイメージを持っているが14.4%、どちらかといえば良いイメージを持っているが、33.0%と全体のうち約半数が、比較的良好なイメージを持っていることが分かりました。一方で、特にイメージは持っていない方が25.4%と約4分の1、悪いイメージを持っている方が4.8%、どちらかといえば悪いイメージを持っているが14.1%と比較的悪いイメージを持っている方が全体の約5分の1おられることが分かりました。次に、②守口市の具体的なイメージについてお伺いしたところ、大阪市に近いので交通が便利、買い物などの日常生活に便利など、生活基盤が充実していることについて、回答が集中したところです。次に、③住んでいる地域の住みやすさについては、先ほど回答のあった生活基盤の充実度と相まって、全体の4分の3の方が住みやすいと回答された

ころです。次に、④守口市の「まち」について、好きなところと嫌いなどころをお伺いしました。主な意見をまとめて資料に列挙しておりますが、好きなところとして、交通の便が良い、大型ショッピングモールがある、スーパーやコンビニが多い、いろいろな施設が整っているなど生活基盤の充実を挙げる意見が多くありました。また、嫌いなどころとしては、治安が悪い、街灯が少なく、道が暗い、道路等が汚いなど、生活基盤が比較的早くから整備されており、それらの再整備に課題があること、また、全国792市中29位の人口密集自治体であることと相まって、生活環境に課題があるとの意見が多くありました。次に、⑤守口市で暮らす満足度については、約7割の方が比較的満足であると回答いただいたところです。次に、⑥守口市に対する愛着については、約6割強の方が比較的愛着があると回答いただいたものの約3割強の方が、どちらでもない、または愛着がないと回答されました。次に、⑦守口市民としての「誇り」があるかをお伺いしたところ、約3割の方が誇りがあると回答いただいた一方で、どちらでもない方が約半数、比較的誇りを感じないという回答が約2割ありました。次に、⑧地域活動への参加意向についてお伺いしたところ、「わからない」との回答が32.3%で最も多く、次いで祭りなど地域の行事に参加したいが26.8%、災害時などに地域の手助けをしたいとの回答が22.3%あったところです。次に、⑨今後の守口市の居留意向をお伺いしたところ、分からない、決めていないと回答された方が45.4%、次いで守口市外のところに住みたいが16.2%、守口市に住み続けたいとの意向を持っている方が全体で4割程度の回答がありました。次に、⑩守口市外のところに住みたい理由としては、「その他」が36.2%と最も多く、次いで、治安が良くない、まちのイメージが良くないがそれぞれ25.5%と比較的回答が多くあったところです。

次に、(5) 今後の仕事の希望についてお伺いいたしました。まず、①仕事をする主な目的としては、収入を得るための78%と最も多く、次いで、人の役に立つため、仕事を通じて達成感や生きがいを得るためとの回答が多くありました。また、本項目については、全国アンケートも実施しており、人

の役に立つため、仕事を通じて達成感や生きがいを得るためとの回答については、全国平均を上回る回答があったところです。次に、②仕事と家庭・プライベートの優先度については、回答者の半数強である55%の方が、仕事よりも家庭・プライベートを優先すると回答され、どちらとも言えないとの回答37.8%と2分する結果となっております。なお、こちらについても全国アンケートが実施されており、仕事よりも家庭・プライベートを優先するとの回答については、全国平均を8%ほど下回っている状況です。次に、③仕事を選択する際の観点に対する重要度について、お伺いしたところ、重要度の高いものとして、③安定していて長く続けられること、①自分のやりたいことができること、④収入が多いことに回答が比較的多くなったところです。なお、全国アンケートと比較したところ、⑩自宅から通えること以外についてはすべての項目で全国平均を上回ったところです。次に、④仕事と家庭の関係についてお伺いしたところ、②子育てと仕事を両立しにくい職業がある、⑥家庭のことを考えると転職や離職が難しくなることに回答が多くあったところです。

次に、(6)結婚観についてお伺いしました。まず、①結婚に対する考え方については、ある程度の年齢までには結婚したいが42.6%、結婚するつもりではいるが、結婚の条件が揃うか理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくて構わないが28.9%との結果になっています。また、ある程度の年齢までには結婚したい人に、結婚したい年齢をお伺いしたところ、25~29歳が全体の約6割を占め、平均では、27.1歳となっております。次に、②結婚するための条件についてお伺いしたところ、最も多く集まった回答は、良い人に巡り合えるが79.3%、次いで、自分または相手の仕事が安定するが33.2%の結果でした。次に、③結婚する場合に住みたいところをお伺いしたところ、どこでもよいが32.7%、わからない・考えたことがないが31.7%と約6割強を占め、守口市内に住みたいとの回答は、16.8%と約2割弱の回答があったところです。次に、④結婚に対するイメージについては、好きな人とずっと一緒にいられるが43.6%と最も多く、次いで精神的・経済的に安定するが

19.6%、子どもが持てるが27.5%との回答が多くありました。

次に、(7)子育て観についてお伺いしました。まず、①子どもの有無については、約98%の方がおられないと回答がありました。次に、②理想の子ども数については、「2人」との回答が、49.1%と最も多く、次いで「まだ考えていない」が27.5%となったところです。次に、③子どもを持つことに対するイメージについて、お伺いしたところ「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」との回答が61.2%と最も多く、次いで「好きな人の子どもを持ちたいから」が21.3%、との結果の一方、比較的ネガティブなイメージとして「経済的な負担が増える」との回答が22.3%ありました。

最後に、(8)守口市の今後のまちづくりについてお伺いしました。①守口市の取り組みについて、知っているものをお伺いしたところ、守口市シンボルキャラクター「もり吉」の誕生が65.3%、学校の統合・建設が57%、大枝公園のリニューアルが49.1%となっております。また、幼児教育・保育の無償化については、39.5%の認知度にとどまっており、建設やゆるキャラなど目に見える政策の認知度が高くなる傾向が読み取れたところです。

以上で、若者アンケートの概要についての説明を終わります。

続きまして、(仮称)第6次守口総合基本計画の策定にあたり、無作為抽出した21歳以上の市民2,000人を対象に実施し、有効回収率1,001件、回収率のあった市民アンケートについて、特に、本総合戦略に係る部分のみご説明させていただきます。

資料41 ページの(5)守口での居留意向についてをご覧ください。

まず、①守口市での通算居住年数については、57.7%の方が30年以上と回答されており、8割を超える方が、10年以上居住されておられます。次に、③転居を決める際に考慮した住環境についてお伺いしたところ、通勤・通学が便利であるが62.6%、鉄道やバス、道路等の交通が便利であるが42.4%、買い物等、日常生活が便利であるが41.4%と、若者アンケートにおける本市のイメージと同様に、生活基盤の充実に多くの意見が集まったところです。次に、④今後の居留意向については、約7割の方が今後も本市に住み続けたい

と考えており、いったん居住されると長く居住される傾向が読み取れたところ  
ろです。

以上で市民アンケートの概要に関する説明を終わります。

最後に、転出入アンケートの進捗状況についてご説明いたします。

本アンケートの実施方法については、前回の委員会においても回収数が非常に少ないのではないかとのご指摘を受けたことから、アンケートの回収枚数が増えるように総合窓口課での働きかけ等を行い、開始から約2か月弱で104枚回収することができました。

それでは、転出入アンケートの現時点での実施状況について、その概要を説明させていただきます。

まず、問1の性別については、男性が59件、女性が45件となっております。

次に、問2の年齢構成につきましては、20代から30代のファミリー層に相当する方々から回答を得ることができました。

次に、提出された届については、市外から市内への引っ越しに関する届が53件、市内での引っ越しに関する届が21件、市内から市外への引っ越しが30件となっております。

次に問4-1引っ越し前の住まいについては、いわゆる賃貸の方が53件と最多となっており、問4-2引っ越し後の住まいについても58件と同様の状況となっております。

次に、問5-1引っ越し前の同居人数については、平均2.2人となっており、問5-2の同居者については、一人暮らしが最も多い回答となりました。

次に、問5-3引っ越し後の同居人数については、平均1.69人となっており、引っ越し前よりも微減となっており、問5-4の同居者についても一人暮らしが最も多い回答となりました。

次に、問6引っ越しされた理由については、仕事上の都合が最も多く、次いで結婚や離婚が多くございました。

次に、問7引っ越し先を決める際に考慮された住環境については、通勤・通学が便利である、鉄道やバス、道路等の交通が便利、買い物等、日常生活



が便利など生活基盤の充実を挙げる方が多く、これについては、若者アンケートと同様の状況となっております。

次に、問8守口市のイメージについては、比較的良いイメージをお持ちの方が、61件と全体の約6割を占める状況となっております。

次に、問9守口市の魅力だと感じているところについても問7引っ越し先を決める際に考慮された住環境についてと同様に、生活基盤の充実を挙げる方が多くございました。

次に、問10守口市がさらに良くなればと思うことについては、治安の良さが27件、まちの清潔さが23件という結果となっております。

次に、知っている守口市の取り組みについてお伺いしたところ幼児教育・保育の無償化、大枝公園のリニューアル及び守口市シンボルキャラクター「もり吉」が最も多くなっております。以上で転出入アンケートの概要について説明を終わります。

次に、人口推計について、最新のものが出ましたのでその概要を報告させていただきます。

今般、人口推計を行うにあたり、コーホート変化率法を使用しました。この方法では、住民基本台帳のデータを使用し、毎年の変化をとらえた推計を行うこととさせていただきます。

2ページ、3ページに具体的な推計方法を記載しておりますので、また、お時間がありましたらお目直しをお願いしたいと存じます。

それでは、4ページの3. 今回の守口市での推計をご覧ください。

今回の推計によりますと、守口市の総人口は、令和7年、2025年には139,472人、令和12年、2030年には、134,590人となり、令和22年、2040年には、現在より約2万人少ない、123,531人となる見込みとなっております。

年齢構成は、2030年には、生産年齢人口が8万人を切り、2040年にはさらに1万人少ない6万人台となる一方、高齢者数は増加し、2035年には、高齢化率は30%を超える見込みとなっております。

次のページをご覧ください。2018年に国の社会保障・人口問題研究所にお

ける人口推計が発表されており、守口市の人口推計も併せて発表されております。

国の推計では、2030年の守口市の人口は、122,513人となっておりますが、今回の市の推計では、人口減少のスピードはゆるやかになっており、134,590人となっております。前回、お示した推計よりも人口減少がゆるやかになっている理由としましては、2015年以降の転入超過の傾向を加味した推計になっていることが、主な要因であると考えております。

次に、6ページをご覧ください。約5年前の平成27年度に作成しました、守口市人口ビジョンとの比較を行ったものがこちらのデータとなっております。

人口ビジョン策定時の人口推計と、今回の推計との主な違いは、国勢調査の人口を利用していることと推計の方法が異なる点です。

次に、7ページをご覧ください。一番上には、今回の推計内容を再掲しております。人口ビジョンにおいては、成り行きでの推計を「趨勢ケース」とし、地方創生に取り組み、出生率が向上している推計を「地方創生ケース」としてお示ししておりました。

今回の人口推計の結果は、2030年までにおいて、人口ビジョン策定時点の推計と比べ、人口減少は緩やかになっております。そのグラフは次のページに掲載しております。

人口推計に関する概要については、以上で報告を終わります。

以上、案件（1）意見交換①若者アンケート等の実施状況についてに関する説明を終わります。

○委員長　　どうもありがとうございます。

委員の皆さんのイメージでも結構ですから、お考えとか、あるいは事務局に対する質問がございましたら、よろしくお願ひします。

○委員　通勤環境などが重視されているという所だと思うのですが、もし、アンケートを取り直したら災害に強いかがおそらくもっと上位に上がってくると思うんですね。私の住んでいる練馬区は東京23区の中で一番地盤

が強いという結果が出ていて、それまでは一番田舎だということでしたが、これから住む場所を選ぶときは、災害という観点はポイントになってくると思います。その観点から守口市としてどういうようにアピールしていくのかということが大事ではないか。通勤の部分については、私の会社もテレワークというか、支店に行かなくても仕事ができるっていうのをどんどん進めていこうとしています。来年オリンピックで東京地区はほとんど通勤が大変ではないかということで、最寄りの支店で仕事ができるような取組をしようとしています。そしてそれを大阪でもやろうという話になっており、通勤が便利かどうかというのは総体的に今後低くなっていくと思います。自宅でも仕事ができるようなことになってくると、やっぱり家が安全かどうかというところに視点が移っていくのではないかと思います。

○委員長 貴重なご意見、どうもありがとうございます。

○委員長 今のお話にも絡むと思いますが、生活環境や通勤、それから交通のアクセス手段は、若い方に限らず、高齢者も含めて非常に大事なところだと思います。特に今、守口市の場合はやっぱり大阪市に近いということと、それから守口の場合は京阪と地下鉄とモノレール、3つの駅があるという、非常に交通の便はいいと思います。市内にも出てきやすいし、空港にも行きやすい。ただ、私が残念に思うのは、京阪守口市駅と地下鉄守口駅とは近いけれどもアクセスは悪い。なかなかわかりにくい。だから、これを地下でつなぐのか上の陸橋でつなぐのか、アクセスを良くすれば、守口市の設備、例えば駅前の体育館やこの市役所や、それから旧の市役所の国道を挟んで隣の市民会館跡に用地があったり、市として有効活用できるものがあるので、もっと魅力が上がるんじゃないかと思います。特に市役所は立派な施設に変わって、まさに地方創生として子育て世代を呼び込むための施策に使われたり、イメージが非常に明るくなってよくなったと思う。それが転入増につながっていると思うので、せっかくの資産をうまくつなぎ合わせ、アクセスも含めて、そういうことをもう少し何かできれば、移り住んできていただける、特に子育て世代に移り住んできていただけるものに響くのではなかろうかと

いうように思います。

○委員長　　どうもありがとうございます。

ほかにございませんか。

○委員　　この意見は、私が考えていた内容とほとんど同じですが、1点だけ、どうなのかというのが、治安が余りよくないというところでは、そんなに悪いイメージを持っておりませんので、どういった部分が治安が悪いのかということをもうちょっと聞きたかったなと思います。たばこのポイ捨てなどがあるのは実際に見ていますが、それほど変わった街ではないというイメージを持っておりますけれども、そういったところをもうちょっと詳しく知りたいと思います。

○委員長　　ありがとうございます。

○事務局　　先ほどの治安の件ですけれども、事務局でお調べしたところ、やはり基本としては人口の密集地帯というのは、刑法犯罪の認知件数が多い傾向にはあります。守口市では、平成28年の10月から防犯カメラ1,000台を導入し、犯罪数の変化率を追っていますが、例えば、平成27年度と30年度は、防犯カメラを設置する前後で調べたところ、犯罪の減少率については27年度と30年度を比較すれば40.22%減っております。この減少率については府内で5位であり、犯罪は非常に減っているという結果になっております。確かに人口1,000人当たりの刑法犯罪の認知件数でいきますと、平成27年度は府内では3位であったんですが、30年度では5位と順位は低下してございます。しかし、先ほど申し上げたように、人口密集自治体ではどうしても警報犯罪の認知件数は多くなる傾向があります。

しかし、その防犯カメラの設置によって減少しておりますので、治安は非常に改善をして、府内全体でも改善をしておりますし、守口市では特に改善をしているというようなところではございます。

○委員長　　どうもありがとうございます。

○委員　　事前にアンケート拝見をして強く持ったイメージとしては、若い方も一般の市民の方も、やっぱりイメージと治安と清潔、まちが清潔かどうか

か、こういうところにネガティブな意識をお持ちだということが何となく傾向としては出るのでしょうか。若い方は、今は守口に住んでおられるのでしょうかけれども、市外に出ていきたい理由の上位3つが今申し上げた項目になっていますね。

一方で、事務局さんが今おっしゃったように例えば、インフラの問題なんかはこれ、すぐには解決しないでしょうけど、治安の問題なんかについては、相当ドラスティックに改善されているということですね。しかし、若い方のイメージからすると「もり吉」はよく知っているけれども、防犯カメラが設置されているということについては極めて認知が低い数字になっていますね。それはこのアンケートの中にも示されていますね。24ページですかね。この中でシンボルキャラクターの誕生については65%の方が認知をされていますけれども、一方で、防犯カメラを1,000台設置された件については18%しかない。その辺の要するに施策に対する認知度のギャップが結局はそのイメージや治安が悪いといったネガティブな評価につながっていて、それが結局、守口に住み続けることにマイナス効果を生んでいるような流れがあるのかなという気がします。

もちろんネガティブな要素をどうやって政策として取り組んでいって、予算の範囲の中でそれを効果的に実現していくかという観点は重要だと思いますし、それは総合戦略の中で議論していかなければならないと思うのですが、それと同時にイメージを払拭するためのさまざまなPR努力を広報活動も含めてうまく見せていくということがこれから、特に若い方については重要だと思います。また、手段についても、SNSのような、極めてコストパフォーマンスが高い伝達手段もあると思いますので、ぜひ工夫いただきたいと思います。

○委員長　ほかにございませんか。

実際に住んでおられる市民の代表として、何か違うな、あるいはそうだなと思ったことがあればどうぞ。

○委員　防犯カメラにつきましては私も知りませんでした。家の近所で喫

煙の防止というのはあるので、目につくところはやっぱりすぐわかりますが、そういう情報は今初めて知りました。

○委員長　　どうですか。

○委員　　私も防犯カメラは知りませんでした。

○委員長　　この幼児教育・保育の無償化は、守口市は実は先進的ですが、それはどうですか。

○委員　　それは今まさに子供が通っているもので、すごくありがたいなと思います。私も、先ほどのお話にあったような治安の部分について悪いイメージが全然ないのに、アンケートを見たらすごい治安が悪いイメージ結果となっているので、意外とそう思われている方が多いんだなっていうのを知ることができたことが大きいです。それから、自分が住んでいる校区は街灯が多くて、私がもともと住んでいる実家は他県ですが、街灯が少ないので、やっぱり大阪は都会だな、明るいなっていう印象があったんですけど、先日、校区が違うんですけど、子供が通っている園のところに忘れ物をしたので、夕方取りに行ったら、街灯が少なく、昼間走ると日が暮れてから走ると全然印象が違うな、すごい暗いなっていうイメージはありました。アンケートの中にも街灯が少ないっていうのも上がっていたので、そういう明るいところとか暗いところとか街灯っていうのも全然違うんだなと思いました。

○委員長　　ありがとうございます。

○委員　　商工会議所青年部で役員をさせていただいているのですが、商工会議所青年部としまして、昨年、提言委員会を立ち上げさせていただきました。市や会議所本体に対する提言なんかを考えていますが、メンバーにいろいろアンケートをとった結果、僕らは中小企業が多いので、大きな会社であれば自宅でいろいろ仕事をしたりっていうことが可能かもしれないんですけど、どうしても工場に通ったり、会社に通ったりすることが多いです。

ですので、特に雇用も今ちょっと足りない状況で、やっぱり大企業から埋まっていくような状況ではあると思いますので、足りない状況で、まず就職してもらおうことと、あと、もう一つは離職者を減らすっていう、定着という

2点があると思います。定着、就職してもらうのはいろいろ施策、ハローワークに頼る部分とか、お知り合いに頼ってという地道な取組になるんですが、定着においては入ってくる人間をいかに逃がさないかっていうを、どうすれば可能かというのをちょっと話し合っていければ、入ってすぐの入社1年目研修とかは結構どこでもやられているんですけども、5年目とか10年目とかは、いろんなところの年代におけるそういう研修みたいなものやっってはどうかと。なかなか先ほど申し上げましたとおり、小さい会社ばかりでは自社でやるには限界があるんで、次の1月にちょっと提言させていただくのは商工会議所本体などに対してできないかというような提言をさせていただきたいというような話になっています。

ですが、市全体でそういうようなことをしていただいたら、もっと大きな定着が生まれるっていうのは、守口市に会社があるところに通う人間っていうのは、近いところから通いたいという思いが強いと思いますから、定住にもつながるし、離職を減らすことによって、人口が増えていくと思います。そういうことを提言させていただいたんです。言うのは簡単ですが、職種もばらばらですし、その工場技能が上達するような研修をするのか、あるいは商業も非常に多いんで、そこら辺の研修になるのかっていうのは、まだまだ内容に関しては詰めていかないといけないんですけども、ざっくりとした部分の提言としてはそういうような方向を決めましたので、そこを市も拾っていただいたらというような思いはあります。

○委員長　ありがとうございます。

やっぱり若い人に仕事がないと、そこでずっと働けないということが現実です。僕は四国の出身ですが、そこでもこういった委員会はあるのですが、やっぱり行き着くところは、若い人っていうのは、収入のある仕事がないから、結局どんどん転出してしまう。まさに委員のおっしゃるとおりであります。人口の推計を見ると、そうはいいながら守口市でも、高齢者がどんどん増えてきている。そうすると、市役所から見ると、税金の負担も増えてくる。ですから、そういう人が増えてきたときに若い、実際に働いている方が増え

てないといつかは破綻する。だから、この話は重要だと思います。

ほかにございますか。

○委員　今ハローワークのお話聞かせていただいたので、御紹介をさせていただくと、先ほどおっしゃっておられるように職住近接、地元企業という要素は非常に重要だと思っています。この中で、その若者が最初に就職を考えてしまうのは、聞き覚えのある企業であったり、親御さんも含めてどうしても、やっぱり流れがちになりますので、できるだけ地元企業を御紹介する機会をとということで、実は9月23日に、18社の企業にご参加いただき、平日ではなく祝日に市役所の1階をお借りして行ったんですけど、104名の御出席をいただいて、地元企業の説明であったり、面接であったりといった機会を設けてさせていただいたので、家庭環境とか、家族同居だとか、求める条件に違いはあるかもしれませんが、やはり近場で就職をして、そこでまた収入を得て暮らしていきたいという方も一定おられるのではないかと思います。在職者の方も含まれておりますので、市外にお住まいの方でも、どこかの時点で近くで働きたいという方は期待はできるかなという感触は持ちました。そういう活動は商工会議所とも一緒に進めていきたいと考えているところで

○委員長　ありがとうございます。

ほかにございますか。

ぜひこのアンケートを有効に使っていただいて、今もありましたように、守口市が幼児教育・保育の無償化ですとか、そういうことを一生懸命、全国に先立って行っているということをもう少しSNSとか、いろんな形で外に向かっても発信できるようなことをぜひお願いしたいと思います。

それともう一つは、やはりどの程度まで数値化していいものかということはまだ難しいでしょうが、やはり治安の問題などで、そういうカメラをちゃんとつけているということも、市内の方に向けて、何かいい形でお知らせして、治安はどんどん良くなっているんだと。2025年に万博がありますので、大阪府全体としてもおそらくそういうことは劇的によくなるんじゃないかな



と思うんですけども、それに一つ先んじて、そういうことも発信していただけたらと思います。

○事務局　事務局からよろしいですか。

2点ございまして、先ほどのお二方の市民の委員さんのほうから防犯カメラについてご存じいただけていなかったのは、大きく反省をいたしまして、広報紙等でPR、また先ほど説明のあった犯罪率のデータですね、その実績なんかも含めてPRをしっかりとしていきたいと思います。

それと先ほど委員からございました京阪と地下鉄の接続というか、アクセスの件でございますが、今現在、豊秀松月線、郵便局のちょうど前の道を拡幅をさせていただいて、アクセスの向上に努めますとともに、御承知のとおり、旧本庁舎の跡地の活用につきましては、間にちょうど文禄堤という堤がございまして、そのアクセスとの重要性も今、年度内に開発事業者の決定まで持っていきたいと思っております、実施方針の中でもその重要性については謳っているところでございまして、いずれの方法につきましても積極的に進めて、そのアクセスの向上に努めてまいりたいと考えています。

○委員長　よろしく申し上げます。

それでは、続きまして、案件の2、これも報告でございますけども、ゆるキャラに見る地域活性化と経済効果について、事務局のほうから御説明申し上げます。

○事務局　それでは、「案件（2）報告①ゆるキャラに見る地域活性化と経済効果について」ご説明をさせていただきます。恐れ入りますが、お手元の「資料2 ゆるキャラから見る地域活性化と経済効果について」をご参照賜りますようお願いいたします。

本案件については、令和元年7月3日に開催した「第1回守口市まち・ひと・しごと創生委員会」において、山口副委員長から、本市のシンボルキャラクターである「もり吉」を地方創生にどのように生かしていくべきか、考察することが必要ではないかとの課題提起をいただきましたことを受け、このたび報告させていただくものです。お手元の資料については、ゆるキャラ

で成功をおさめている事例として有名な滋賀県彦根市の「ひこにゃん」と熊本県の「くまモン」を取り上げ、本市の「もり吉」と比較させていただいたものでございます。

資料の左側から順を追って説明させていただきます。

まず、本市のシンボルキャラクター「もり吉」でございますが、登場年が、2016年で市制70周年を盛り上げるため、公募したもので、266件の中から選考をさせていただきました。モチーフについては、なにわの伝統野菜であり、かつて本市域の特産品であった守口大根をキャラクターに取り入れた柴犬の男の子という設定となっております。本キャラクターによる経済効果は算出してはおりませんが、大日にありますイオンの店内において「もりキッチン」というフードコート内の子供の遊び場を設置いただいております。また、市内事業者がスマホケース、ハンカチ、雑貨、クッキーなどのお菓子類など「もり吉」を使用した商品を製造・販売しており、それらの売り上げなどについては、直接的な経済効果となっていると考えております。

次にターゲットですが、こちらは市として明確に設定しておりませんので、現状で申し上げますと主には市民対象という形になっております。

次に、戦略については、市として明確なものを設定してはおりませんが、先ほども申しあげました各種グッズ等を製造及び販売していただいている事業者と市が連携し、「もり吉」のPRに努めているところです。

次に、商業目的に係るキャラクター使用料については、市の承認を受けたものは無償で使用できることとしておりますが、特定の企業の応援や商品等を勧めたり、吹き出しなどで商品名を言わせることができないなど一定の制約を設けております。効果といたしましては、2017年のゆるキャラグランプリにおいては、101位、2018年においては、122位となっております。なお、今年度においては57位と大幅に順位を上げております。また、アンケートの結果についても一定の認知度の向上が図られております。

次に、成功事例の一つ目といたしまして、滋賀県彦根市のシンボルキャラクターである「ひこにゃん」について、ご説明いたします。登場年は2006年

となっており、「ゆるキャラ」という言葉が商標登録された年が2004年であることから、まさに「ゆるキャラ」草創期に生まれたキャラクターであると言えます。キャラクターについては、公募で、国宝である彦根城築城400年祭を盛り上げるために作成されたキャラクターです。経済効果等につきましては、2017年の彦根市観光に関する経済効果測定調査報告書によれば、彦根市への観光客数237万人、経済効果として362億円超があるのではないかと分析されております。次に、ターゲットは観光に訪れる女性としており、彦根城において、毎日ショーをするなど気軽にいつでも会える気軽さを戦略の中心としております。商業目的に係るキャラクターの使用料については、彦根市の承認を受け、有償による使用となっております。効果等につきましては、彦根城や滋賀県の認知度が上昇し、外国でも人気を博すなど、まさに成功事例といえるところと考えます。

次に、成功事例の二つ目といたしまして、熊本県のシンボルキャラクターである「くまモン」について、ご説明いたします。登場年は2010年となっており、「ゆるキャラ」が社会に認知されたころに生まれたキャラクターであると言えます。キャラクターについては、デザイナーに委託したもので、九州新幹線の開業により、熊本県が単なる通過駅となってしまうのではないかと懸念からそれに対する対策の一つとして生まれたキャラクターです。経済効果等につきましては、日本銀行熊本支店が実施した、くまモン関連商品売上高に関するアンケート調査結果によれば、1000億円超があるのではないかと分析されております。ターゲットはインバウンドを含む観光客としております。戦略としては、官民挙げての宣伝ということで、県外はもちろんのこと、国内外における活動を展開しており、都道府県のキャラクターということで、スケールメリットを生かした幅広い活動が行われております。商業目的に係るキャラクターの使用料については、熊本県の承認を受け、無償による使用が可能となっております。効果等につきましては、国内外における熊本県の認知向上が上げられ、成功事例といえるところと考えます。

これで成功事例との比較検討を終わりますが、「第1回守口市まち・ひ

と・しごと創生委員会」でご意見をいただきました、ゆるキャラの効果によって子育て世帯が流入しているかを示す資料については、確認できませんでしたが、ゆるキャラの成功は、当該地域の知名度向上、観光客増加及び域内における消費が増加したかによっては評価されているのではないかと考えており、その観点で言えば、人口増加そのものに焦点が当てられているのではなく、地域の活性化と経済効果による定住促進がゆるキャラの目的ではないかと考えます。

以上の分析から、ゆるキャラの存在意義としてはゆるキャラが、地域の良いところを市域の内外に発信し、住民がゆるキャラを通じて発信された情報に触れることで地域の魅力を知る。また、ゆるキャラが他の地域で自らが住む地域の魅力を発信していることを知ることで、改めて住民が市の魅力に気づき、愛着を持つことで定住につながるのではないかと考えております。本委員会におきましても改めてゆるキャラの活用方法などについて各方面からご意見等をいただければと考えます。よろしく願いいたします。

以上で「案件（１）意見交換②ゆるキャラに見る地域活性化と経済効果について」のご説明を終わります。

○委員長　　どうもありがとうございます。

この件につきまして、何か意見ございますか。守口市の場合は、観光客がどのぐらいいるかはわかりますか。

○事務局　　守口市そのものに対して観光に来られているというような数値は把握してはいないのですが、守口市の場合、駅前にシティーホテルがございまして、そちらに海外からの方の宿泊が多いということで、そういう切り口で見れば、人数としては、府内でも比較的上位のほうにあるというような結果はあります。守口市においても、もりぐち歴史館「旧中西家住宅」などの歴史的建造物とか、かつては江戸川乱歩が住んでいた居住の跡地等もありまして、小粒ではありますが、観光地というのはあるんですけれども、それに目がけて来られている数というのは具体的には把握をしておりません。

○委員長　　東海道五十七次はまだ継続されているのでしょうか。

○事務局　東海道は基本、五十三次っていうのは安藤広重の浮世絵で有名かなと思いますが、五十七次っていうことについては、守口宿のそういう歴史、これをPRしていこうという、これは任意の民間の団体がありまして、こちらのほうでPRをしております。我々としなくても文化財のガイドマップ等で、守口は東海道の一部であるというようなことはアピールしているのですが、なかなか認知度が高いかどうかはわかりません。枚方市では、そういうようなことを結構PRされているということは聞き及んでおります。

○委員長　委員の地元企業としてこういったものの活用は、どのような状況ですか。

○委員　やはり弱いです。先ほどありましたように枚方なんかは五六市とって毎月第二日曜日に開催していると思うんですが、せっきく文禄堤があるんで、そういうようにうまく活用すればとは考えるんです。現状としては、あんまり聞かないというか、地域の中でも五十七次っていうのを知らない人が多いと思いますので、アピールが弱いかなとは感じますね。

○委員長　ほかに何かございませんか。

○委員　ひこにゃんとくまモンは、全国レベルのもので、僕ももり吉の顔はようやくわかる状況になってきている。やっぱり毎日見ていると親近感も湧くと思うので、観光の話もありましたけど、観光で誘致するという目的でないのなら、僕はもう十分浸透しているんじゃないかなっていう気はしています。我々も、「りそにゃん」っていうキャラクターを使っています。我々も、「りそにゃん」っていうキャラクターを使っています。我々も、やっぱり賛否両論あって、でも、見ていると慣れてくるというか、逆にいないと寂しいみたいなのに思います。なので、根気よくいろんなところに露出させていくしかないのかなっていうように思うのと、今言われたような観光資源がもしあるのであれば、そこに銅像か石像か、絵かはわかりませんが、もり吉ですっていうのを大きく書いておいて、来られた方が写真を撮ってSNS等上げて、どんどん浸透させていくしかないのかなと。私は、もり吉はいいんじゃないかなと思っています。

○委員　その観光の件もぜひお考えいただけたらいいと思うんですけど、や

やっぱり観光って各市が単体で実施してもなかなかそんなに効果がない。先ほどおっしゃったように、それぞれ地域資源はあるけれど、それをどう結びつけ、どう発信していったらいいのかということになると思います。もう少し観光については、広域でそういうルートをつくっていくとか、そういう形にしないと、1つの市だけっていうのはなかなか難しいのではないかと。私も今7市のそれぞれ会議に入らせていただいている、そういうお話を聞くんですけど、やっぱり3市、4市、逆に言えば北河内7市で一つのコンセプトとかルートをつくり上げて、それぞれが発信していくという形をとったほうがいいのではなかろうかと考えます。今後やっぱり交流人口っていうのはどんどんふえていくと思いますし、ここはJRは通っていませんけれども、松井山手に新幹線の駅が来るということで結構、学研都市線沿線、そういう今後の人の交流が増えていく可能性は高くなってくると思うので、やっぱりそういうときに、素通りされるのではなくて、いかにこの地域で一旦は観光してもらおうとか泊まってもらおうとか、消費してもらおうとかいう、そういう仕掛けが必要なんじゃないかと思いますので、また御検討いただければと思います。

○委員長　　どうもありがとうございます。

ぜひそのようなポイントも参考にさせていただきたいと思います。

○委員長　　それでは、報告の2、最後ですけれども、関西大学との共同研究の進捗状況について、事務局のほうから御説明いただきたいと思います。

○事務局　　それでは、「案件（2）報告②関西大学との共同研究について」ご説明をさせていただきます。恐れ入りますが、お手元の「資料3」をご参照賜りますようお願いいたします。

関西大学との共同研究については、令和元年7月3日の「第1回守口市まち・ひと・しごと創生委員会」において、ご報告をさせていただきました中間発表に係る内容について、令和元年8月3日に開催されました関西大学オープンキャンパスにおいて本発表がありましたので、その概要をご報告させていただきます。また、この報告内容のうち去る11月3日に開催いたしました「第34回守口市市民まつり」において、事業として具現化させていただいた

ものとして「もり吉そっくりコンテスト」を実施させていただいたことからその内容についてもご報告させていただきます。

それでは、最初に関西大学オープンキャンパスにおける本発表の概要についてご説明します。

本発表については、平成31年4月1日から令和2年3月31日を研究期間として、「守口市に住みたい」、「守口市で子育てしたい」、「守口市に行ってみみたい」と思う人が増えるようシティプロモーション、ブランディングに関して、本市と関西大学商学部にも所属する流通・会計・国際ビジネス・ファイナンス・マネジメント分野の5つのゼミナールの共同研究成果でございます。

まず一つ目は、ファイナンス専修のゼミナールからの発表で、内容として、本市が抱える課題について、ファミリー層の転出超過していることに着眼し、市や自治体などの活性化と、参加者の恋活を目的としたイベントとして、街コンをしてみてはどうかとの提案がありました。街コンについては、写真好きや運動好きなど複数のテーマを設けることにより幅広い参加者を募ることとし、街コンをした際には本市が実施している子育て施策についてPRすることで、街コンにより守口市の良さに気づき、定住いただくことで守口市の活性化につながるのではないかとのご提案がありました。

二つ目は、会計専修のゼミナールからの発表で、内容として、人口減少を抑えることを目標に、そのための課題を抽出するにあたりBSCを活用してはどうかとの提案がありました。BSCとは、バランス・スコアカードというものを指し、ビジョンと戦略が中心となって財務・顧客・内部ビジネス・プロセス、学習と成長という4つの視点が因果連鎖していることから、これらの項目一つ一つにおいて、戦略を策定し、実行する総合的な戦略マネジメントシステムのことで、本市においてこれを作成することで、本市が人口減少を抑えるには、何をすべきかが明確にできるメリットがあるとのこと。他の自治体では、東京都千代田区が導入をしており、本市において作成すればどのようなものになるかということについても参考として資料のとおりお示しいた

だいたところでは、

三つ目は、国際ビジネス専修のゼミナールからの発表で、英語教育で魅力的な街にするとのことで、既存の学力向上の取り組みに加えて、英語の放課後学習に加え、それで得た知識や技能等を発揮していただくイベントを併せて実施し、イベントがもつ「楽しさ」と英語で話す「楽しさ」の二つを動機に、学びを深めていただくことで英語教育を充実し、英語の街としてPRしてはどうかとの提案でした。また、本プランに関して小規模ながら守口市内でアンケートを実施したところ、ファミリー層及び外国人にも興味があり参加したいとの回答があったことも併せて報告があったところでは、

四つ目は、流通専修のゼミナールからの発表で、情報発信アプリの充実をテーマとした発表として、守口市はこれまで幼児教育・保育の無償化や防犯カメラ約1000台の設置や大枝公園再整備事業など様々な取り組みをしているにもかかわらず、そのPRが十分になされていないことを課題として、情報発信に力を入れることで、守口市の魅力を最大限伝えたいということ念頭に、本市が保有するアプリを充実すべきであるとの提案があったところでは、主などころでは、市民の皆さんに見ていただけるように、行政情報に加え、グルメマップやアプリ上でのフォトグランプリの開催などについて、提案があったところでは、

五つ目は、マネジメント専修のゼミナールからの発表で、安心、快適、便利に子育てできるまち、守口をテーマに、守口市のイメージアップやシティプロモーション及び魅力的なイベントの開催により守口を誇りに思う市民を増やすことで、転出を防ぎ、転入につなげる取組ということで、守口市の魅力を記載したステッカーや手書きマップの作成、もり吉にそっくりな犬のコンテスト及びPR動画の作成、もり吉体操に関するご提案があったところでは、

なお、これらの取り組み成果については、市のシステム上の掲示板にて公開し、本市の職員すべてが見られるようにさせていただいており、市の各所管部署において、施策の立案等において参考としていただくこととしています。



以上で、関西大学との共同研究に関する概要について説明を終わります。

続きまして、5つ目のマネジメント専修のゼミナールから発表があったもののうち、もり吉にそっくりな犬のコンテスト及びPR動画の作成については、学生さんから、是非とも本市のために何か一つでも実現したいとのご意向をいただいたことから、庁内で検討した結果、実施することとし、もり吉にそっくりな犬のコンテストについては、去る11月3日に開催された第34回守口市民まつりにおいて「もり吉そっくりコンテスト～みんなでもり吉のそっくりさんを探そう！！～」を開催させていただくこととし、学生の皆さんが作成したチラシやポスターをはじめ、市においても広報誌、ホームページ、公式SNS及びFM放送を駆使して、できうる限りのPRをさせていただきました。当日は、事前に応募のあった出場犬15匹の写真を学生の皆様が撮影し、投票ボードを作成の上、当日、市民まつりにお越しの方々に投票いただき、そのうち2匹を表彰したところです。今後、学生の皆さんが作成していただける守口市のPR動画に、表彰された出場犬に出演いただくこととなり現在、その調整をさせていただいているところです。

また、もり吉体操についても曲、歌詞及び振付について考察いただいております。今後、市としてその取扱いを検討してまいりたいと考えているところです。

それでは、最後に関西大学での研究発表の様子について、市で動画を作成させていただきましたので、ご覧いただければと存じます。

なお、本動画については、動画サイトYouTubeの本市公式アカウントにて公開をしているものです。また、「もり吉そっくりコンテスト」についても当日のスナップ写真を撮影しておりますので併せてご覧いただければと思います。

まず、関西大学のオープンキャンパス、本発表のときの動画、広報広聴課作成したものでありますが、そちらのほうからごらんをいただきたいと思います。

続いては、もり吉そっくりコンテストの写真について御紹介します。当日は、先ほどゼミで発表していただきましたマネジメント専修の学生さん7名

に当日お越しになっていただきました。その折には、御提案いただきました内容に関するパネルを設置したり、朝早くから準備を精力的にやっていただきました。

守口市のステッカー、六角形のステッカーで防犯カメラのことでありますとか保育のことでありますとか、もり吉のことやステッカーをつくったらどうかという御提案で書いていただきました。

それからグルメマップ、学生の皆さんが自ら市内回られまして、各お店にもお声かけを学生の皆さんでしていただきまして、つくっていただきました。

それから、先ほどの動画でも触れたもり吉体操、今は振りつけについてもうちよっと精査をしていただくというような形で報告を受けております。

それから、当日の犬の受付の様子であります。学生の方がこれも主体的に受付をしていただいたところであります。13匹の犬に参加いただいたんですが、大半が柴犬だったんですが、一部は別の犬種の犬もおりまして、楽しく行うことができました。守口の夢・未来大使として委嘱をさせていただいております吉本興業所属の大平サブローさんも当日、ステージの司会等をされておりましたが、撮影時、お越しいただきました。

投票の様子ですが、投票については市民の方、この市民まつりにお越しの方、360名ほど来ていただきました。大人の方からお子様まで来ていただきました。我々も立ち会いをさせていただき、守口市広報広聴課も撮影等に行かせていただきました。

表彰式もたくさんの方が詰めかけていただきました。こちらも学生のみなさんが手づくりしてくださいました。当日は、関西大学の副学長の方もお見えになりまして、賞状の授与等をしていただきました。

併せて、まち・ひと・しごと創生総合戦略とも関連します、総合基本計画を策定するに当たり、守口市のまちづくりに関するアンケートとインタビューしようということで、隣のブースで実施しました。こちらは一つ目の守口市に住み続けたいですかという項目に、投票いただきまして、最終的には172人の方が御投票いただき、結果は、住み続けたいと御投票いただいた方が150

名、市外に引っ越すかもといった方が7名というような形になっております。投票いただいた年代についても、ファミリー層の方が多く、50人以上の方が守口市に住み続けたいと回答いただいたところです。

次に、守口市に住んでよかった、守口市のお勧めな点、それから守口市にもっとよくなってほしい点についても附箋を張るような形でアンケートをとらせていただきました。その結果、子育てしやすい、それから、今、学校の統廃合を進めておりますので、学校がきれい、それから、ほかの市よりも病院が多くて暮らしやすい、防犯カメラの1,000台設置、梅田が近い、交通の便がいい、駅の近くに大学がある、便利、あと大阪市内に出やすい、スーパーがたくさんあって何でもそろろうというような御回答がありました。一方で、守口市にもっとよくなってほしい点の御意見については、子供の学力を伸ばす政策を強化をしてほしい、自治会の活動ができない人がふえている、治安がよくない、地価が高い、ごみごみしている、緑が少ない、道路をきれいにしてほしい、道路ががたがたで段差があってベビーカーが押しにくい、それから、市のアピールに余りお金を使っていないのではないかという御意見がありました。市民アンケートの結果と符合すること多く、実際にアンケートの正確性を確認できたと考えております。

以上で「案件（2）報告②関西大学との共同研究について」のご説明を終わります。

○委員長　　どうもありがとうございます。

これにつきまして何か御意見等ございますか。

1回だけではなく、今後またこの近くにある大学やいろんな大学も含めて、仲よくしていただいたら、そこの学生さんも守口に住みたいなど、あるいは守口の企業なんかももう少しこういう場でアピールしていただいたら、学生さんも、例えばパナソニックとかトヨタとか、そういうのは知っているんだけど、その部品を製造しているところとか、いろいろな系列の会社があるんだと、そういうの結構知らないんです。ベアリングをつくっているとか、学内でも企業の方が来てくださって、こんなことやってますと言うと、そうな

んだということが多いので、そういうこともぜひ、市も一生懸命やっていたら、僕らも助かります。

○委員 守口市さんは、大阪国際大学さんと連携されていますよね。今回は関西大学の学生さんがこの委員会のメンバーに入っておられたので、そのつながりかと思いますが、国際大学も幼児教育の分野、今まで力を入れて、まさにこの市が目指している子育て世代っていうところにはかなりプラス効果があると思うので、そちらともまたぜひそういう取組を進められたらいいと思います。ぜひお願いしたいと思います。

○委員長 どうもありがとうございます。ほかにございませんか。

○委員 子育てに対する施策を先行して行ったということで、それはすばらしいことだと思うんですけど、今おっしゃられたとおり、これから英語っていうのはやっぱりすごく大事だと思っているんですね。先ほどの守口市にもっとよくなってほしいというところにも、教育があったかと思いますが、恐らく子育てされているお父さん、お母さんは必ず英語は何か習わせると思うんですね。守口市に住んでいれば自然と英語が身につくような環境にしていけば、住みたいと思うのではないかと、僕も、もし子どもが今から生まれるんだったら、もしそういう市があれば、表示が英語ベースなのか英語併記なのわかりませんが、英語が至るところにあれば、歩いているだけで勉強になって、一つのアピールになるのかなと思います。

○委員 住み続けたいという方が多かったというのはすごく大事なことで、今議論しているのは、少しネガティブな部分もクローズアップされながら、それをどうやって直していくのかというところがあるかと思うんですけども、あれだけの方が住み続けたいというような反応を示されているところをぜひともクローズアップしていただければ、ムードもちょっと変わってくるのかなというようには思っています。そのネガティブなところは地道に市の努力で改善はしていかないといけないとは思いますが、本当にこのように意思表示として住み続けたいという方があれほどたくさんあるということもアピールしていかれたらいいのではないかなというように思いま

す。

○委員長　先ほどおっしゃっていただいた、市役所のOBの方が音頭をとっていただいて、よつば小学校に月に1回ですけども、朝から晩まで、途中で御飯も食べながら、キッズキャンパスというものをやっています。最近、小学校も英語教育とかいって、うちの国際大学、外国のネイティブの先生もいらっしゃるんで、毎回ではないんですけど英語をやっていただくと、小学生はやっぱり喜ぶんですね。そういう意味でも大学というのはいまうまく利用していただけたら大学もうれしいし、地元の人もそういう経験ができて、いいことではないかと思います。私は田舎の出身なので、外国の方に出会ったのは大学に来てからで、最初は緊張して何も話せないということがあったんですが、前向きにやると、そういう評判が変わってきますので、お願いしたいと思います。

ほかにございませんか。

それでは、事務局からお願いします。

○事務局　英語の部分で今、御指摘もいろいろいただきましたけれども、守口市では人材育成基金という基金を積み立てておりまして、その基金の原資の部分と運用利益を使いまして、毎年、各小学校で早い段階から英語の教育にネイティブに触れられるということでAET、アシスタント・イングリッシュ・ティーチャーの派遣事業を実施しております。今度もそういった部分で活用していくことは考えておりまして、市で人づくり委員会というものを別に設置をしておりますので、そちらについて教育委員会とも連携しながら今後も考えていかなければと思っていますので、その旨の御報告させていただきたいと思います。

○委員長　ほかに本日の案件以外で何か御意見などございますか。

○委員　感想ですが、生産人口がどんどん減少する状況は、もう結構待ったなしの状態になってきたなというのは改めて確認しました。税収が減ってくる中、力を入れるとこっていうのを選択していく必要があると思います。もり吉とかゆるキャラについては、やっぱりそういう状況の中で、先ほどお

っしかったような、ひこにゃんだとか、くまモンだとか、交流人口を、要は観光でもってお金落としてもらって帰ってもらうことで経済効果に十分寄与しているのかなと思ったんですけど、もり吉の場合は、先ほどのアンケートにあったような通勤通学とか便利ですよとか子育てをするにあたり、どういふことを重視していますということを引き細かく分析して守口市をアピールしてもらったらいいのかなということをおもったりします。

○委員長　　ありがとうございました。

○委員　　今の委員のお話で少し申し上げておいた方がいいかなと思ったんですが、地域活性化と経済効果についての資料に載っていたんですけど、ちょっと私がいきさつを少し捉え間違えていたら申しわけないんですが、そもそも論として経済効果を狙ってもり吉をつくったのか、その何が目的か、きっかけは書いてあるんですけど、いわゆるキャラクターをつくって、そのキャラクターに何をさせたいかということのコンセプトというか、狙いっていうか、もう戦略というか、それが多分、彦根とか熊本とはもしかしたら違ふかもしれない。あちこちキャラクターってできてはいますが、それぞれ持たせる目的や狙いが恐らく違ふていてもいいのかなと。それをどういふように活用して、その結果、狙いに対するどういふ効果が得られているかということを検証していくということが、コストパフォーマンスがあるのかもしれないなと思うんですけども、その辺が、もちろんあるんだろうと思いますが、資料の2からは読みにくかったのかなとおもいました。

そうすると、もり吉をどのように登場させて、どういふ局面で、どういふように使っていくのか、ブランディングについても戦略が少し出てくるかなと。それが市民の皆さんを対象に、例えばさまざまな施策の周知、PRに使うことに持っていくのであれば、そういう使い方になるでしょうし、もちろん外に対して交流人口の増加だとか、そういう知名度を上げていく。守口市民は守口のことは知っていますから、知らない人に対してアピールしていくとかいふことに使っていくとか、その辺を少し整理される。もしされるのであれば、それをもう少し明らかにされると。もしくはされてないであれば、

その辺を整理した上でPDCAを回していくという、そういう考えがあるのかなと思ひまして。

○委員長　　どうもありがとうございます。

よろしく御検討お願いします。

○委員　　今回、守口市駅と守口駅の間がきれいになるということで、郵便局としては本社、支社が話に入っており、我々ほとんど聞く一方なのですが、最近いろいろ話が身近に来るようになりまして、今もありましたもり吉とか、あるいは英語教育、こういったのを、道路を活用してうまく進めていただければと思います。近くでは寝屋川市駅と外環状の間がかなり広がって、きれいになったということですが、あそこを見ておりますと、広がってきれいになったねというような感じは持っていますが、特ににぎやかになったというようなイメージは私自身、持っておりませんので、ぜひとも守口市駅と守口駅の間、きれいになって何か活性化、活発になるような、そういったシステムで動いていただければ本当にありがたいなと思ひますので、よろしくお願いします。以上です。

○委員長　　ほかにございませんか。

○事務局　　事務局からよろしいでしょうか。

○委員長　　はい。

○事務局　　本市、去る8月の末に東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして登録をされました。相手国が西アフリカにあるガンビア共和国といたしまして、府内でもアフリカの国とのホストタウン登録というのは極めて珍しい状況でございますので、内閣官房でもかなり注目をいただいております。来る万博も見据えて交流を積極的に進めていきたいと思ひます。本委員会、各方面から企業さん、また市民の皆さんにお集まりいただいておりますので、来年、まだ先方のオリンピック委員会とは調整中ではございますが、事前合宿の可能性もございまして、極めて小さな選手団で来られますが、先日の世界陸上では女子の200メートルで決勝まで残られた選手もいらっしゃいます。また来年さまざまな御協力、御支援いただくことになろうと思ひます。

いますので、またその節はよろしくお願い申し上げます。

○委員長　すばらしい。

それでは、いろいろ御意見いただき、有意義な会だったと思います。事務局、よろしく申し上げます。

○事務局　「案件（３）その他」について、令和元年度の守口市まち・ひと・しごと創生委員会の進め方についてご説明をさせていただきます。恐れ入りますが、お手元の「資料４ 令和元年度の守口市まち・ひと・しごと創生委員会の進め方について」をご参照賜りますようお願いいたします。

本日、「第２回守口市まち・ひと・しごと創生委員会」を開催させていただいております。本日いただきましたご意見等につきましては、庁内で精査し、今後の事業や来年度策定予定の総合戦略に本日の論点を生かしていきたいと考えております。

次に、「第３回守口市まち・ひと・しごと創生委員会」については、令和３年３月ごろに予定しております。次期総合戦略については、既に前回の創生委員会でご報告をさせていただいているとおり、令和２年度中に策定する第６次総合基本計画との整合性を図る観点から計画期間を１年延伸することとしており、新たに策定する第６次総合基本計画における目標や主要施策を総合戦略の目標や重点施策とすることを基本とさせていただくことを考えております。ついては、現在の総合戦略の内容をそのままに１年間延伸することを考えておりますが、その際に配慮すべき論点等がありましたら、この機会にも是非ともご意見をいただければと考えているところです。

以上で「案件（２）報告①令和元年度の守口市まち・ひと・しごと創生委員会の進め方について」の説明を終わります。

○委員長　どうもありがとうございます。

この点について何か御質問ございますか。

それでは、以上をもちまして令和元年度第２回守口市のまち・ひと・しごと創生委員会を閉会させていただきます。

本日の議事録でございますけども、議事録の署名は、小西委員と佐伯委員



をお願いしておりますので、よろしくお願ひします。では、どうもありがと  
うございました。

◇ 午前 1 1 時 4 5 分 閉会

~~~~~